

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2774002857		
法人名	株式会社 ビケンテクノ		
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム		
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号		
自己評価作成日	平成 25年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成 25年 12月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2774002857-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 25年 10月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホーム(家)は駅や公園が近くにあり、ゆとりのある運営を行っています。一人ひとりの生活スタイルを尊重し、「心豊かに、支え合う場」として穏やかで安心した暮らし、残存機能を最大限引き出し、日常生活に活かせるよう支援しています。 ①手厚い人員配置(個別対応を重視) ②日々の食事・行事 ③生活習慣を大切にし、ご入居者の必要とされる時間に人員配置 ④毎朝屋外にてラジオ体操の実施、及び午後より屋内にて元気アップ体操の実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、最寄駅から数分のマンションが立ち並ぶ住宅の中に立地し、近くには公園があり、利用者は地域の方との交流ができる環境の中にあります。居室の前には、居間から出入りができる広いベランダを設けています。災害時には、廊下の両側にある非常口と居間の三方向から避難できるような経路を確保し、居室にはスプリンクラーを取りつけています。『合言葉はメルシー＝ありがとう』をホームの目標に、一人ひとりのニーズに合わせた個別ケアを全職員で共有し、ケアに取り組んでいます。年3回家族会を開催し、家族の参加も多く、意見は運営にも反映されています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で住み慣れた環境の中で、個々人の生活習慣を大切に、安心した生活が送れるよう努めている。又玄関入口に掲示し、毎日合同申し送り時に全員で唱和し理念を共有して実践に繋げている。	事業所の理念を利用者や家族、職員が見える所に掲示して、毎日唱和し、職員間の理解を深めています。職員は利用者一人ひとりが役割をもって自発的な活動ができるよう、全職員で共有してケアの実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、近隣の公園まで出かけラジオ体操を地域の方たちも参加され一緒に行い又散歩で挨拶を交わす等、ふれあい機会も多く日常的に交流している。地域の行事や週1回ふれあいサロンに地域との交流を広げている。	職員は利用者が地域の一員として、ホームから出かけて、地域で触れ合う機会を持つように支援しています。地域の2カ所のふれあいサロンや、近くの公園で日課として行うラジオ体操の時間を通して、地域住民との交流を深めています。地域の賛助会に入会し、月1回会長と地域の情報交換を行っています。今後は、地域の交流の場として開放している2階のフロアを活用し、認知症の勉強会や地域の相談会の開催を計画中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めて頂く為、地域の幼稚園、小学校に雑巾縫いのお手伝いをさせて頂く事等、又中学校の職場体験・ボランティアの受け入れやホームの開放を気軽に利用していただけるよう呼びかけ地域貢献へと努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の中で、活動・取組状況等報告し、意見や助言を頂き質の高いサービスに繋げている。	運営推進会議の規約を作成し、3カ月に1回開催しています。会議には利用者、市職員、地域包括支援センターの職員、地区社会福祉協議会の職員、介護相談員、職員が参加し、事業所の状況報告、利用者の活動報告を行っています。参加者からの地域の情報提供等、活発な意見交換ができています。ふれあいサロンなどを通して地域住民の方に運営推進会議への参加を呼びかけ、今後は地域の声を事業所運営に反映していくことも検討しています。また、家族にも会議の参加を呼びかけ、年3回の家族交流会で運営推進会議について話し合いや報告をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との情報交換や、有効な場として位置づけ、必要な手続きや相談等指導を受け連携を築けるよう努めている。	市の担当者とは、日頃から密に連絡ができる関係を構築しています。事故報告や外部評価結果を報告する体制を整えています。事故対応の方法など、相談した事例もあります。市が開催する年4回の事業所連絡会と、年1回グループホーム交流会に参加し、他事業所とも情報交換を行い、他の事業者とも連携体制を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や精神的拘束は一切行っていない。フロア入口のテンキーを解除し、他フロアを自由に行き来出来るようにしている。1階玄関に関しては、安全面に考量し、施錠している。開放感のある工夫や、希望時に外出が出来るような人員体制を整えている。	2階はフリースペース、3・4階に居室や共有スペースとなっており、2階から4階まではエレベーターで自由に行き来できるようになっています。1階は保育園の入り口にもなっているため、安全面から玄関扉は施錠しています。職員は毎朝、近くの公園で外気に触れる機会を設け、利用者が季節感や開放感を感じるような支援を心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や防止マニュアルを熟知し、相手の立場に立った視点での虐待の理解を深め、日々の対話・対応の中で自己判断のみとならないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会があれば参加させて頂き、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し、納得したうえで契約を交わしている。解約時は納得して頂けるよう、医療、福祉機関等、連携し退居の為に必要な支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、入居者個々が不満や思い等、引き出せるようゆっくり関わる時間を作っている。ご意見箱を設置し、家族会や面会時、カンファレンス等に参加して頂き、気軽に意見や要望を聞かせて頂き運営に反映している。	年3回、事業所行事の際に家族交流会を開催しています。他に年1回、家族会を開催して、家族の意見や要望を聞く機会を設けています。面会時には、居室担当者や職員が気軽に声かけのしやすい雰囲気を作っています。家族の意見により、今後はアンケート内容の変更、改善に取り組む方向です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアミーティング、カンファレンス等に、又職員の個別面談を年一回実施し意見を聴く機会を設け、利用者のケアの質の向上に繋げている。管理者も夜勤や現場に入り利用者、職員の心身の状況を把握するようにしている。	管理者は、月1回の全体会議や各フロアミーティングで、職員から意見や提案を聞いています。利用者の夜間入浴支援について、職員からのアイデアを話し合い、試みた事例があります。また年1回、職員に個別面談を行い、職員の意見や希望を聞く機会にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実力、勤務状況を把握し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し社内研修にて研修発表を行い、全職員が共有しスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や、地域ネットワークへ参加し、グループワークにて活動を通し、サービスの向上へと取り組んでいる。		

大塚市 介護予防サービス事業 実施計画書 第1版 2018年12月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい環境、ゆったりとした時間を作り傾聴し、職員との信頼関係を築き上げ、本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の状況を理解し、意見・要望等聞かせて頂き、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より情報を収集し、状況を理解したうえで、必要性を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ないところをお手伝いさせて頂き、家族の一員として日々共に支え合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を必要時家族に報告し、又、カンファレンス等に参加して頂き意見、要望を伺い、協力を頂きながら、共に本人を支えていくよう、より良い関係づくりを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄、大切にしてきた生活、背景等、十分に理解し、大切な人との交流と馴染みの場所へ出かける等の支援をしている。	職員は、利用者一人ひとりのこれまでの生活を大切にしたいケアを心がけ支援に努めています。家族の協力を得て、本人がこれまでの生活が続けられるように、馴染みの場所への外出や外泊を行う方がいます。職員は入居後、親しくなった利用者同士に、気分に変化をつけて会える場所として、週一回、喫茶ルームを開催しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の信頼と、より良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、個々人の個性を把握し、必要時対応し共同生活が楽しいと思っていただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院先にお見舞いに行くことや、又家族様から手紙や電話にて現況報告や、相談等あり、支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聴き、意向に添えるよう、又意思疎通の困難な方も行動や表情を見逃すことなく思いを把握し、ゆっくり関わる時間を作り支援している。	個別対応の手厚いケアを重点とした人員配置により、ゆっくりと時間をかけた支援の中で、思いや意向を聴き、言葉の一つひとつを聞き取っています。把握した思いは『気づきファイル』に記載し、職員間で共有しています。気付きの内容はその都度、カンファレンスで話し合い、日常の支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活習慣等の情報を収集しセンター方式を活用しながら今迄の生活環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察するとともに。現状を把握し、個々に有する残存機能を発揮できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々利用者の気付きを記録し、都度、カンファレンスで話し合い、現状に即し対応している。又3ヶ月のケアプラン見直しは、家族にもカンファレンスに参加して頂き目標に対しての評価を行い又、意見・要望を聞き介護計画を作成している。	計画作成担当者は、毎月のモニタリングを基にカンファレンスを行い、3ヵ月毎に介護計画書及び、一連の生活援助計画、個人別日常生活支援サービス表の見直しをしています。介護計画書は職員全員に周知し、介護職員は毎月、目標の達成状況をモニタリングして評価を行い、介護計画の見直しに繋がっています。状態に変化があればその都度見直しています。介護計画書は家族や関係者の意見を聞き、作成しています。計画作成担当者は、家族や職員がわかりやすい内容にした介護計画書の作成を常に心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・個別チェック表・経過表で情報を共有し、ケアプランノ評価を日々行い変化が生じた場合、気づきノートに記載し、随時カンファレンスを行いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、状態で都度、話し合い、必要とするサービスを情報提供し、柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動（ふれあいサロン、敬老会）への参加や保育園児との交流、図書館の利用等、又、本人が得意とする作品を地域の作品展示会に出展するなど、心身の力を発揮しながら豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、利用者家族に主治医の意向を確認している。ホームの提携医との24時間連携、月2回の往診により利用者の健康管理を行っている。又他に専門医への受診支援も行っている。	入居時に提携医の説明を行い、主治医の変更は、利用者家族の意向を尊重しています。月2回の提携医の往診により、健康管理を行っています。提携歯科医は月1回の往診があり、治療の必要な利用者については、職員が通院支援をしています。眼科・皮膚科・診療内科等、専門医の往診、受診の支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が従事しており、状態変化や気づき等、連絡相談を行い24時間連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるよう又、入・退院時の利用者に関する情報交換や相談に医療機関と密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、入居当初に終末期の在り方等、説明し本人、家族の要望を確認している。主治医、家族、職員間話し合い「出来る事、出来ない事」を見極め方針を共有し支援し取り組んでいる。	事業所の終末期の支援方針については、入居時家族に説明し、同意を得ています。事業所の方針として職員は利用者の人権を尊重し、全人的なケアを行う方向で日々取り組んでいます。家族、主治医、職員間で話し合い、『できること、できないこと』を見極め、方針を共有し支援することになっています。入居後は3ヵ月に1回、緊急時対応について家族と話し合い、方針を共有し、支援しています。開設以来数名の看取りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修に参加し、急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し又、諸注意及びチェック表に基づきすべての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消防訓練を消防署員の協力を得て夜間想定も含め利用者参加のもと実施している。	日常的な防災管理は、必要な点検項目について、担当者を決めて実施しています。事業所内には3・4階とも避難口が2カ所ずつあり、バルコニーに第一次避難が可能です。避難・消防訓練は年に2回、向かいにある同一法人の有料老人ホームと合同で実施し、うち1回は消防署の指導を得て実施しています。今年度は夜間を想定し、利用者も参加して避難訓練を実施しています。今後は、同じ建物にある1階の保育園とも合同訓練を行い、連携を図っていく方向です。地域との協力体制として、同法人有料老人ホームの警備会社と協力関係を構築しています。今後は、近隣のマンションや新たに建設されるマンションとの協力関係も検討していく考えです。	災害時の備蓄について、一部準備を行っていますが、飲料水や非常食については、向かいにある同法人施設内に準備しています。今後は、災害時の備えとして、事業所内やフロア毎にも備蓄等を準備するよう検討してはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入社時には、秘密保持に関する誓約書を交わし周知徹底している。利用者を尊重し、尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。排泄介助に於いてもプライバシーを損ねないような言葉かけに配慮している。	職員は、個人情報保護法の遵守や日常的なケアでのプライバシー確保の大切さは認識し、支援しています。玄関を入ったすぐのところに『個人情報の保護方針』、『プライバシーポリシー』を掲げています。職員は排泄誘導時の声かけには特に配慮し、利用者の人格を尊重し、誇りを保てるようにさりげなく支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	個々の思いや希望が言えるような環境に配慮し、個々に合った対応と意思表示できない利用者に対し、言動や表情を観察し、くみ取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣及び生活リズムを把握し、ペースを大切に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ理美容の利用を支援し、身だしなみや洋服を自身で選べるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁作り、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、又、利用者の好きな食べ物を聴きメニューに取り入れる等、楽しみと自信に繋がるよう支援している。月一回の行事食や出前も楽しみとしている。	職員は、食事を日常の楽しみの一つとして位置づけ、献立作り、買物、調理、後片付けなど、一人ひとりができる事に役割をもって活動ができるよう取り組んでいます。職員は、利用者同士がお互いの交流ができ、会話を楽しめるような支援を心がけています。利用者と職員は同じテーブルで食事をしながら、会話の中から利用者の好みや食事会のメニューの希望などを聞き取っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録し、必要量を摂取するよう声掛けや、好みの飲み物を提供する等、工夫している。又食事の摂取量を把握し、記録にて健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。月一回歯科往診にて定期検診を行い歯科医の所見にて個々に指示を頂き本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄間隔を個々に把握し、プライバシーに配慮しつつトイレ誘導を行い支援している。紙パンツ使用の方も日中は布パンツを使用して頂き快適に過ごして頂けるよう努めている。	排泄地チェック表を作成し、職員は一人ひとりのパターンに合わせた個別の支援を行っています。トイレでの排泄を基本とし、職員はトイレ誘導時にはプライバシーに配慮して、さりげなく声をかけ、支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と水分摂取の把握及び適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境となっている。個々の希望や習慣に出来るだけ近づけるよう努めている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤で気分転換を図り、入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は個浴で、週3回を基準としています。希望があれば、毎日入浴ができるよう体制を整えています。夜間入浴を希望される方に、職員間で話し合い、勤務体系を変更して夜間の入浴支援に取り組んだ事例があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解し、日中は適度の運動や散歩に出かけてもらい程よい疲れを感じて頂き、夜間安眠の確保を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書内容（相互作用・注意事項・副作用）を確認理解し、症状の変化を観察するよう努めている。 ※薬の飲み残しや誤薬はないか確認したうえで、与薬者サインし、記録で残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされる事を見出し個々に役割とし自信と楽しみとなるよう又、趣味や楽しみとしてきたことを継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動に参加するなど、積極的に行い、個々で事前に希望を伺いゆっくりと出かけられるよう個別にて外出を計画し実行している。交通機関を利用し、買い物や行きつけのお店で外食等々、今迄楽しみとしていたことを継続できることの支援をしている。	毎日、公園でのラジオ体操や散歩、近隣のお店への買物など、外出の機会を設けています。利用者は担当職員と話し合い、外出時間や外出場所の希望を出し、趣味の買物や好みの飲食店に出かけられるように支援しています。地域のいきいきサロンへの参加や、幼稚園等に雑巾を持っていくなど、地域との関わりを大切にして外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者で自己管理できる方には、少額程度は所持して頂き、又小口（3千円程度）をホームで預かり管理し、買い物時は、本人に財布を手渡し支払いをしてもらっている。毎月出納帳をコピーしレシートを添付し家族に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望をされる際、都度対応し、家族や友人へ手紙のやり取りが出来るよう又、手作りの便せんやはがきを作成し、通信を楽しめる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の環境や日ざし、音、室温等、快適な生活空間であるよう心がけ又、季節を感じて頂く為の装飾やリビングにソファを置きゆったりと落ち着いた雰囲気づくりに工夫している。	エレベーターを降りた所が玄関となっています。緑の鉢植えや金魚の水槽が置いてあり、水やりや餌やりを役割にしている利用者がいます。玄関に入ってすぐの共有スペースである食堂兼リビングは、明るく開放的で、利用者が会話を楽しんでいます。リビングからは、ベランダへ自由に出られるようになっています。居間には温・湿度計を設置し、四季を通して利用者が快適に過ごせるように工夫しています。壁にはボランティア手作りの布製のカレンダーが掛けてあり、毎月利用者が日付を取り換えています。居間の横にソファを設置し、利用者がゆっくりと落ち着いて過ごせるスペースになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に落ち着ける場として、廊下にベンチや椅子を設置し、個々が自由にくつろげる居場所を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等、今迄の井蛙kつ環境に近づけ居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、ベッド、洗面台と壁には温湿計が設置されています。空調は職員の協力で季節に合わせて設定されています。部屋は今までの生活が続けられて居心地良く過ごせるように工夫しています。自宅で使っているテーブルや椅子、タンス、仏壇など持ち込んでいる方がいます。飾り棚やポータブルトイレにかぶせるクロスを自分で作成し、居室で居心地良く過ごせるように工夫している方がいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を掲げ、廊下、トイレ、ふろ場には手すりをつけ、危険な場所には、表示するなど、混乱や障害がないように配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		